

安全管理体制の強化

安全管理方法

▶ 保安監査

昭和49年に設置した監査専門部署の流れをくむ安全推進部が鉄道の現業部門に対して、毎年保安監査を実施しています。現場調査・書類調査・ヒアリング調査などを通じて、輸送の安全確保に関する業務が適正かつ効率的に行われているかをチェックし、監査の結果を社長、安全統括管理者、監査役に報告します。定期監査のほか、必要に応じて臨時の監査も行います。

また、安全推進部が実施する保安監査以外にも、各管理職が自らの部門に対して行う部内監査も年1回実施しています。



保安監査

▶ 安全マネジメント監査

鉄道の現業部門だけでなく、安全管理体制に含まれる社長、安全統括管理者、経営統括室（経営戦略担当・経理部・人事部）、安全推進部および鉄道企画部に対して、安全マネジメント監査を毎年行っています。安全管理規程に則り、安全管理体制を適正に運用するとともに、継続的な改善を図っているかを確認します。

▶ 鉄道安全大会

安全管理体制の強化の一環として、平成27年3月に第7回鉄道安全大会を開催しました。来賓に近畿運輸局鉄道部をお迎えしました。大会においては「平成26年度各部門安全重点施策結果」「平成27年度安全重点施策取組テーマ」について発表を行うとともに、原子力安全システム研究所・作田博様より「ヒューマンエラーとパフォーマンスについて-安全の向上を目指して-」について基調講演を、また、慶應義塾大学理工学部・岡田教授より「安全意識調査の結果」について解説をいただきました。最後に参加した役員・社員全員で安全基本方針を唱和し、安全の誓いを新たにしました。



鉄道安全大会

教育・訓練

▶ 総合防災訓練

地震や津波などの自然災害発生時における対応能力の強化を目的とした訓練を毎年実施しています。平成27年3月に、南海トラフ地震の発生を想定した訓練を実施しました。

駅近接の建物へのお客さまの誘導や各種施設の点検および運転再開に向けた復旧計画策定などの訓練を行いました。



総合防災訓練

▶ 総合事故復旧訓練

平成26年11月に、淀車庫において、踏切内で列車が自動車と衝突、脱線するという事故を想定した訓練を実施しました。

負傷者の人命救助、お客さまの避難誘導、2次災害の防止、正確な情報伝達、近畿運輸局・警察・消防など関係機関との協力体制を確認するとともに、脱線車両の復旧、線路・架線・踏切保安設備の復旧などの訓練を行いました。



総合事故復旧訓練

▶ 複合使用建物防災訓練

地震や火災などの発生を想定し、駅および駅に隣接する商業施設などが合同で災害対応を訓練するもので、平成24年度より実施しています。

施設横断的な連絡体制などを確認し、さらなる安全性の向上を図っています。



複合使用建物防災訓練